



東京都島しょ農林水産総合センター八丈事業所  
<http://www.ifarc.metro.tokyo.jp>

## 八丈島のハマトビウオ漁が終わりました。



### ハマトビウオ漁について

八丈島において、ハマトビウオは「春トビ」という通称名で親しまれ、町のシンボルにもなっています。本年の漁は、5月20日の水揚げを最後に約3か月半におよんだ漁が終わりました。ハマトビウオは流し刺網という漁法で漁獲されます(図1)。この漁法は魚が流れに向かって泳ぐ習性を利用して、魚の進行方向を遮るように網を流し、魚を絡ませて漁獲します。この網の長さは2.5kmにもおよび、夕方、7~8名の乗組員を乗せて出港し、翌朝まで数回の操業を行います。荒波に揺れる船上での作業は大変、過酷です。

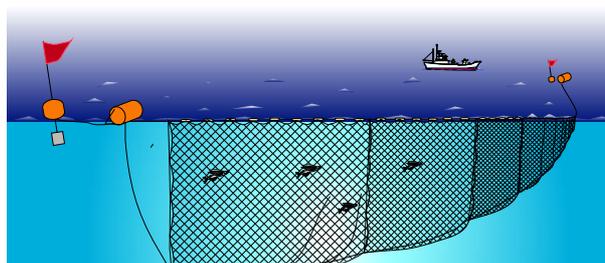


図1 ハマトビウオ流し刺網

表1 八丈島におけるハマトビウオ流し刺網漁における漁獲尾数と、漁獲尾数上位3隻ののべ出漁隻数およびCPUEの推移

漁期	漁獲尾数 (尾)	のべ出漁隻数 (隻)	CPUE (尾/隻・日)
2004年	506,475	146	3,260
2005年	840,785	132	6,303
2006年	753,755	135	5,577
2007年	784,132	157	4,923
2008年	765,316	128	5,978
2009年	738,173	149	4,954
2010年	757,543	129	5,872
2011年	815,117	125	6,521
2012年	572,056	141	4,057
2013年	688,597	135	5,101
2014年	669,435	113	5,924

### 本年の漁模様

表1に2004年以降の八丈島におけるハマトビウオの漁獲尾数と、漁獲尾数上位3隻ののべ出漁隻数およびCPUE(1隻1日当たりの漁獲尾数)を示しました。今年の漁獲尾数は2004年以降、3番目に少なく、のべ出漁隻数についても最も少ない値でした。逆にCPUEは過去4番目に高く、効率的に漁獲できた様子が伺えます。

また、図2から、今年は2~3月の漁期初期の水揚げが伸び悩みましたが、3月下旬以降、順調に水揚げが伸びた様子が伺えます。ハマトビウオは黒潮に乗り、南の海域から八丈島へ産卵のために回遊してきます。今年の漁期初期には黒潮が大きく蛇行し、八丈島より南を黒潮が通過したため、ハマトビウオが八丈島に近づけず、この時期の水揚げが伸び悩んだと推測しています。

ハマトビウオはイワシと同様、資源量の変動が激しい魚種として知られています。八丈島でも1990年代に漁獲がほとんど皆無となった時期がありました。島しょセンターでは、今後も種々の調査を通してハマトビウオの資源量を的確に把握し、安定した漁獲が行えるよう支援していく予定です。

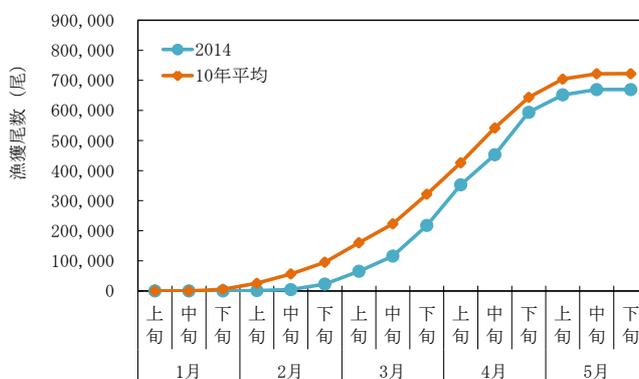


図2 2004年以降のハマトビウオの漁獲尾数の推移